

愛知県環境審議会総合政策部会 会議録

1 日時

令和元年10月10日（木）午前10時～午前11時35分

2 場所

愛知県自治センター4階 大会議室

3 出席者

委員6名、専門委員3名、説明のために出席した職員25名

4 傍聴人

なし

5 会議録の署名

会議録の署名について、榊原部会長が大石委員と永瀬委員を指名した。

6 議事

(1) 部会長代理の指名について

榊原部会長が永瀬委員を部会長代理に指名した。

(2) 審議事項

愛知県環境基本計画の改定について

資料2から6について、事務局から説明を受けた。

【質疑応答・要旨】

(夏原委員)

河川ごとにBODの基準が設定されているが、各河川の水質の状況はどうか。

(事務局)

各河川の水質は改善傾向にあり、水質環境基準の上位への類型見直しを行っているところである。

(夏原委員)

鳥獣保護区の面積が 2018 年度に大きく減少している理由は何か。また、希少種の改善状況について調査しているか。

(事務局)

岡崎鳥獣保護区について、都市化の進行や地域からの意見を踏まえ、指定を解除したことによるものである。希少種の保全については、レッドリストを順次作成しており、リストに掲載された種は増加している。

(山澤委員)

光化学オキシダントの環境基準達成率が 0% で推移しているが、この指標で現状を評価していることになるのか十分検討する必要がある。越境汚染の影響が強い問題であるが、地域で取り組んだ成果が評価できることが望ましい。

(事務局)

光化学オキシダントの平均濃度は近年でも上昇傾向にある。VOC（揮発性有機化合物）対策などを進めているが、光化学オキシダントの改善につながっていないこともあり、国は新しい指標（8時間値の日最高値の年間 99 パーセンタイル値）を設定している。東京都が全国で初めてこの考えを目標値として設定している。光化学オキシダントを数値目標にする場合、ご指摘を踏まえ、施策の効果測定ができるよう検討していきたい。

(山澤委員)

次期計画にどう書き込むか重要なポイントとして、「温室効果ガス排出量を 26% 削減した上で、今世紀後半のできるだけ早期に脱炭素社会の実現」は最低ラインだと思っており、この中で県としてどういった対応ができるのか具体的にしたいほうが良い。

その中で、電力の供給について、我々が関与できないところで、炭素を減らせない状況となりつつあり、20 年先位を見据えた時に何らかの提起等が必要ではないか。発電所の建設・運営は、30~40 年の事業となるため、方向性が決まってしまう。それに対する考え方、方向性を出せることが望ましい。

(事務局)

国の地球温暖化対策計画では、電力事業者の自主的取組を促している。2030 年度 26%削減をすべく環境省や経済産業省と電力事業者の動向を注視している。地域でできることは、地産地消のエネルギーであり、一般家庭の太陽光パネルもそうだが、

バイオマス発電について、資源循環にも資する「地域循環圏モデル」として取り組んでいる。地域でできることに取り組みながら、国へ言うべきことは考えていきたい。

(山澤委員)

あいちクールチョイスとは、具体的に何か。

(事務局)

クールチョイスとは賢い選択のことであり、温室効果ガス排出量の削減に資する行動を選択するものである。県は新たな戦略に基づき、あいちクールチョイス県民運動を展開している。具体的には家庭に太陽光発電や省エネ家電を導入するといった取組である。

家庭レベルでの取組を進めるにあたっては、標準世帯で10年前の冷蔵庫を最新の機種に替えると家庭のCO₂が何%減るとか、太陽光発電を入れると何%といった見える化をし、理解を促進しながら、実施につなげていきたい。そのほか、クールシェアやウォームシェアでどれくらい減るといった見える化をしながら実施している。

(松尾委員)

資料5-1の1ページ、数値目標のうち、全窒素、全磷、ダイオキシン類（公共用水域の水質）の評価地点はどこか。

(事務局)

全窒素、全磷は海域、ダイオキシン類は河川・湖沼及び海域である。

(永瀬委員)

全窒素、全磷の水質は良くなっている。大阪湾などで、水質がきれいになり過ぎて、ノリの質が悪くなるという事例を聞いたことがあるが、愛知県ではどうか。

(事務局)

漁業関係者からそのような声があり、磷濃度が低下する冬期に、矢作川浄化センターと豊川浄化センターで下水道の放流水磷濃度増加に係る試験運転を2017年度から実施している。水産部局から、ノリの色づきやアサリの身入りについて試験運転の効果があったと聞いている。

なお、下水道の放流水磷濃度増加も方策の一つであるが、海自体の浄化能力を上げるために干潟や浅場を保全、造成することが水質浄化に寄与しつつ、自然も豊か

になるという総合的な観点で進めていきたい。

(永瀬委員)

エコアクション 21 認証件数は増加しているが、ISO14001 認証件数は減少しており、トータルの認証件数は減少していると考えられる。また、独自のシステムを導入しているところもあるであろう。数値目標とする場合は、よく考えたほうが良い。

(事務局)

ご意見を踏まえ、検討していく。

(大石委員)

騒音について、被害が局所的であり、継続性がないなどといった理由もあるが、被害を受けている人がおり、県や市町村は調査や規制・指導など行っていることから、騒音についても盛り込まれたい。

(事務局)

現行計画では、38 ページに「大気、水質、土壌、地盤、騒音、振動、悪臭等の環境保全及び改善対策を、今後も着実に推進していきます。」と記載している。ご意見を踏まえ、今後の記載を考えていく。

(松尾委員)

気候変動の影響として、降雨特性がかなり変化している。雨の降り方が明らかに変わってきており、その影響をあわせて考える必要がある。水循環や物質循環についても関係しているので、それを視野に入れて考えていくとよい。

(事務局)

ご意見を踏まえ、検討していく。

(3) 報告事項

愛知県環境影響評価条例施行規則の一部改正について

資料7について、事務局から説明を受けた。

【質疑応答・要旨】

なし

以上

愛知県環境審議会委員 大石 弥 幸

愛知県環境審議会委員 永瀬 久 光